

University of Science, Arts and Technology

BACHELOR of ARTS Course (文学士課程)

TITLE OF THESIS: 中国人英語学習者の為のフォニックス (Chuugokuzin eigogakusyusyanotameno fonikkusu)

Name : Hiroaki Chiba (千葉浩明)

Present Address: 1-8-1-33, Nishioka, Toyohira-ku, Sapporo-shi, Hokkaido,
zip:062-0031 (〒062-0031 北海道札幌市豊平区西岡1条八丁目1-33)

Email : chibahiroaki@bdonline.com

Date Registered: July 11, 2007

Personal Tutor: Yukio Urushiya (漆谷幸生)

1. 統括情報

1.1 論文タイトル: 中国人英語学習者の為のフォニックス

1.2 論文監修審査担当大学: University of Science, Arts and Technology

1.3 論文作成支援担当学部: Department of languages

1.4 論文監修審査主事: Dr. Takashi Terashima, PhD

1.5 学位名: Bachelor of Arts (文学士) 略号 B.A.

2. 序文

2.1 研究主題：中国人英語学習者の為のフォニックス

この論文では、中国本土及び台湾における英語教育において、なぜフォニックスを基礎とすべきであるのか、またそれをどのように行うかに焦点を当てている。

2.2 認識された必要性、重大性、問題：

英語学習者にフォニックスから英語を教え始めることについては、十分に理解されていない。フォニックスは英語学習のあらゆる面—発音、綴り、読解、文法にさえ—影響する。とりわけ子供たちにフォニックスを教えることの益について、十分に認知されていない。さらに、フォニックスについての多くの誤解がある。多くの教師はフォニックスを単なる文字と音であると考えているが、もっと多くが関係しているのである。

2.3 論文主題の正当性と根拠：

この論文の目的は、とりわけ外国語として英語を学習している人々に対してフォニックスを教えることの重要性を示すことにある。これは、子供の教育を気遣い、英語の学習センターに通わせる費用に見合う結果を得ることを願う、すべての人に対するものである。またこれは、時として落胆し、最後には英語を習得することをあきらめてしまう英語学習者に対するものでもある。

3. 目的

3.1 一般情報

中国本土と台湾に住む人々は、英語にいわば「飢えて」いる。しかしながら、何年もかけて英語を学ぶ割にはそれほど進歩していないのが現状だ。それは、通りのサインや広告を見、人々と話して見さえすれば明らかだ。英語教師の中には、ストレスを感じて生徒たちを嘲ったり馬鹿扱いしたりする者さえいる。英語の不規則性と法則の例外の多さを考えると、英語はネイティブにとってさえ学びづらい言語であるといえる。英語学習者は、さらに何を行えるのであろうか？外国語として英語を学ぶことを願う者は、はっきりとした、システムティックな取り組みとフォニックスを必要としているのである。

3.2 論議の特化

アメリカにおいて、自国民に自国語を教える方法として、フォニックスが復活しつつある。とはいえ、長い間、文字による学習方法がアメリカの教育を支配していた。多くの人々は、これが読み書きの能力の減少につながっていると考えている。中国本土と台湾では自国語（漢字）を形で覚える。この方法で英語も学習する。例えば、「play」という語の場合、その読み方を「play」という字の塊で覚えるのである。よって語尾に er がついた player という語は新たな形となるため、もはや読むことができなくなる。このことが原因で、努力の大きさのわりには、英語の習得がほとんど進んでいないことを示したいと思う。フォニックスとは何で、英語学習においてどんな役割を果たすのか？国際音声記号(International Phonetic Alphabet)があるのに、ど

うしてフォニックスが必要なのだろうか？これらはどのように異なるか？生徒たちに音と文字を何度も何度も繰り返させるのは、死ぬほど退屈させることにならないだろうか？生徒たちは学習を楽しむことができるだろうか？もしフォニックスがそんなに良いものであるなら、他の教授法無しでもやっていけるということになるだろうか？

3.3 目標達成度

親であれば、誰でもわが子の教育について案じるものである。この場合に関して言えば、中国人の両親は、子供がよりよい生活を送れるようになると彼らが信じるような仕方で、英語を学んでほしいと願っているのである。この論文の主要な目標は、フォニックスを最初に教えられえた子供が、英語を習得するより大きな可能性を持つようになることを証明することである。二次的な目標は、英語教師たちがフォニックスとは何か、また英語を学ぶ上でどのようにあらゆる面と結びついているかをより良く理解するよう助けることである。

4. 目次

序文	3
目的	4
概要	7

第一章：背景となる情報

1.1 英語を概観する	7
1.2 中国式方法により英語を学ぶアメリカ人	15
1.3 私はどのように英語を学んだか	19

第二章：中国本土と台湾における英語学習の状況

2.1 中国の教育システム	24
---------------	----

.....

.....

結論と推薦：

参照資料：

5. 概要

私は長年の間英語を教えてきたのであるが、北京大学で英語を教え、彼らの英語が理解できなかつた時、私のいらだちは頂点に達した。学生たちは、私がきわめてゆっくりと話した時しか理解できず、自分自身の気持ちや考えを、知的な英語を用いて口頭で表現することはほとんどできなかつた。会話の授業の間、彼らは文字通りズボンに火が付いてしまったかのように、席から教室の外へ飛び出して逃げねばならなかつた。彼らの大部分が平均5年間も英語を学んでいる、ということを知ってさらにショックを受けてしまった。ここでは、確かに何かの間違っているのである。私は、会話クラスで発音練習を実施することにした・・・・・・・・・・。

